

写真に基づく佐賀県からのヤリマンボウの確かな記録

澤井悦郎^{1,2}

¹ 〒 639-0200 奈良県北葛城郡上牧町 マンボウなんでも博物館

² 〒 684-0016 鳥取県境港市花町 8-1 海とくらしの史料館

はじめに

ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* (Liénard, 1840) はフグ目マンボウ科 Molidae ヤリマンボウ属 *Masturus* に属し、世界中の温帯・熱帯海域に広く分布する大型魚類である (波戸岡・萩原, 2013; 松浦, 2017; 澤井, 2017; Sawai et al., 2020)。本種は外観が似ているマンボウ属 *Mola* とよく混同されるが、下顎が上顎よりわずかに前方に突出すること、舵鰭 (尾鰭に見える部位) の中央よりやや背側が後方に突出すること、マンボウ属より体型が卵形であることなどの特徴から形態的に識別可能である (波戸岡・萩原, 2013; 松浦, 2017; 澤井, 2017; Sawai et al., 2020)。

筆者が調べた限りでは、実際に計測されたヤリマンボウの最大個体は全長 10 feet (304.8 cm) であるが (Sawai et al., 2020)、日本近海における本種の最大個体は川上・一澤 (2012) が報告した全長約 220 cm の個体である。日本近海における本種は青森県 (澤井, 2020) から沖縄県 (例えば、澤井・峯水, 2022) まで散発的な記録があるが、マンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758) と比較して漁獲は稀である (松浦, 2017)。

このたび、2020 年 10 月と 2021 年 11 月に佐賀県唐津市の虹の松原周辺の砂浜にヤリマンボウが打ち上げられていた情報が得られ、筆者が調べた限りでは、佐賀県からの本種の記録が見つからなかったため、ここに確かな記録として報告する。

材料と方法

本研究で調査したヤリマンボウ 2 個体に関する写真や情報は、謝辞に記した情報提供者から得られ、写真の観察から外部形態の調査を行った。本 2 個体とも死亡した状態で砂浜に打ち上げられているのを発見された。発見日や発見場所は以下のとおりである：2020 年 10 月 14 日、虹の松原ホテル The Beach 近くの佐賀県唐津市鏡の砂浜 (33°26'52.8"N, 129°59'42.3"E) (Fig. 1); 2021 年 11 月 3 日、唐津シーサイドホテル東館近くの佐賀県唐津市東唐津の砂浜 (33°26'57.4"N, 129°59'29.2"E) (Fig. 2)。情報提供者による現場での目視的な観察から、本 2 個体は全長 150 cm 前後と推定された。

本 2 個体の種同定は上述の先行研究 (波戸岡・萩原, 2013; 松浦, 2017; 澤井, 2017; Sawai et al., 2020) にしたがった。本 2 個体が発見された日を含む旬や発見場所周辺の気象・海面水温は、気象庁 (2024a-c) のデータを読み取った。

結果と考察

種同定と打ち上げ原因の推察 本研究で調査した 2 個体は、下顎が上顎よりわずかに前方に突出すること (Figs. 1A, 2A)、舵鰭の中央よりやや背側が後方に突出すること (Figs. 1B, 2B 矢印)、体型が卵形であることからヤリマンボウと同定された。

本 2 個体がいつどこで死亡したのかは不明であるが、外観的に比較的新鮮なように見えるため、死亡してからそれほど時間は経過していないものと推察された。ヤリマンボウは古くから冬季の日

Sawai, E. 2024. Reliable records of *Masturus lanceolatus* (Molidae) based on photographs from Saga Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 51: 145–148.

✉ ES: Ocean Sunfishes Information Storage Museum, Kanmaki-cho, Kitakatsuragi-gun, Nara 639-0200, Japan (e-mail: sawaetsu2000@yahoo.co.jp).

Received: 16 October 2024; published online: 18 October 2024; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_051/051-030.pdf



Fig. 1. An individual of *Masturus lanceolatus* (around 150 cm estimated total length) was found stranded on beach at Kagami (33°26'52.8"N, 129°59'42.3"E), Karatsu City, Saga Prefecture, Japan, on 14 October 2020. A: anterior part of body. B: main body. Arrow: clavus median projection. Photographed by Yoshinosuke Tsuji.

本海側で打ち上げられることが知られており、その原因は水温低下によって弱った個体が北西の季節風による吹送流によって沿岸に運ばれるからと一般的に考えられている（例えば、Nishimura, 1965；川上, 2002; Sawai and Yoshida, 2019）。

本2個体について打ち上げ場所周辺の海面水温を調べてみると、2020年10月中旬（2020年10月11–20日）は22–23°C、2021年11月上旬（2021年11月1–10日）は21–22°Cであった（気象庁, 2024a）。気象庁（2024b）による水深50m地点の旬平均海流は、2020年10月中旬も2021年11月上旬も壱岐島（長崎県）の北沖を東から西へと流れており、唐津湾の奥部に向かう海流は示されていない。一方、本2個体の打ち上げ場所に近い観測地点（唐津）の風を確認すると、2020年10月13–14日の日平均風速は2.0–4.5 m/s（最多風向は北～北北東）、2021年11月2–3日の日平均風速は1.2–1.6 m/s（最多風向は西北西～北西）であり、どちらも岸に向かう弱い風が吹いていた（気象庁,

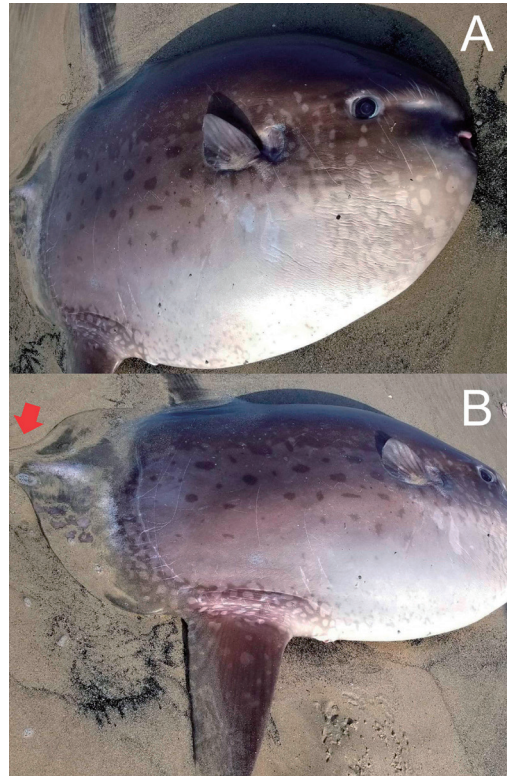


Fig. 2. An individual of *Masturus lanceolatus* (around 150 cm estimated total length) was found stranded on beach at Higashi-Karatsu (33°26'57.4"N, 129°59'29.2"E), Karatsu City, Saga Prefecture, Japan, on 3 November 2021. A: anterior part of body. B: posterior part of body. Arrow: clavus median projection. Photographed by Yoshinosuke Tsuji.

2024c)。ヤリマンボウの出現海面水温に関する知見は乏しいが、Nyegaard et al. (2018) では21.5–27.2°Cの範囲であったことが知られており、本2個体の出現海面水温はその下限に近いがその範囲に入った。このことを考えると、水温が本2個体の直接的な打ち上げの原因になったとは考えにくく、また本2個体の打ち上げ時期も冬季というより秋季であった。一方、発見時の本2個体は比較的新鮮であり、発見日前日から当日にかけて弱いながらも風が岸に向かって吹いていたことから、おそらく唐津湾内で弱っていたか死亡していた本2個体が風の影響を受けて岸に運ばれたものと推察された。

本2個体の情報提供者は過去にも10–11月に虹の松原周辺の砂浜で打ち上げられた他のヤリマンボウ個体を確認しており（写真が得られなかったため本研究には含めなかった）、本種は時折この地

域で打ち上げられるようである。また、四国新聞社（2003）は2003年1月10日に佐賀県唐津市西浜町の砂浜（本2個体の打ち上げ場所と近い）に生きた状態で打ち上げられた推定全長約1mのマンボウ1個体を報告しているが、写真を見ると舵鰭の中央よりやや背側が後方に突出すること、体型が卵形であることから本研究でヤリマンボウと再同定された。四国新聞社（2003）の個体について打ち上げ場所周辺の2003年1月上旬の海面水温を調べたところ、15–16℃であった（気象庁、2024a）。これは上述した本種の出現海面水温範囲より低く、従来の打ち上げ仮説が当てはまりそうである。秋季から冬季に唐津湾に打ち上げられるヤリマンボウの原因をより詳細に知るためには、さらなるデータ収集が必要である。

記録の再検討 佐賀県は日本海（玄界灘）と有明海の2つの海に面しているが、これらの海域は他県も含まれるため、これらの海域でヤリマンボウの記録があったとしても、単純に佐賀県の記録として扱うことはできない。筆者がそれぞれの海域における魚類相の文献を調査した限りでは、日本海側（高木、1966；河野ほか、2011, 2014）でも有明海側（高木、1966；鷺尾ほか、1996；田北ほか、2003）でも佐賀県からのヤリマンボウの記録は見つからなかった。また、本種の全国的な分布を扱った文献でも佐賀県からの記録は見つからなかった（Nishimura, 1965；相良・小澤、2002；山田ほか、2007；鴨川シーワールド、2010；波戸岡・萩原、2013；池田・中坊、2015；本村、2024）。よって、本研究は佐賀県からのヤリマンボウの初記録を示す可能性が考えられたが、本研究で確認できなかった文献上で既に報告されている可能性もあった。しかしながら、少なくとも本研究で調査された2個体（Figs. 1–2）は今まで学術的に報告されていないため、佐賀県からのヤリマンボウの確かな記録となる。マンボウ属が佐賀県近海に出現することは知られているが（相良・小澤、2002）、四国新聞社（2003）の事例のように種が混同されている可能性もあるため、佐賀県におけるヤリマンボウの出現状況を詳しく知るためには、さらなる調査が必要である。

謝辞

本研究を取りまとめるにあたり、辻吉之助氏には本研究で調査したヤリマンボウ2個体の写真や情報を提供していただいた。また、山田寿夫氏には本2個体の発見者である辻氏に連絡を取っていただいた。以上の方々から厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 波戸岡清峰・萩原清司、2013. マンボウ科, pp. 1746–1747, 2242–2243. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 池田博美・中坊徹次、2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 鴨川シーワールド、2010. マンボウ類の飼育に関する調査. 動物園水族館雑誌, 51: 62–73.
- 川上 靖、2002. 鳥取県沿岸に多数漂着したヤリマンボウ属（予報）とその他の漂着動物（2000年4月～2002年3月）. 鳥取県立博物館研究報告, 39: 37–42.
- 川上 靖・一澤 圭、2012. 鳥取県沿岸と周辺海域で記録された海洋動物（2010年～2011年）, および大型ヤリマンボウ. 鳥取県立博物館研究報告, 49: 13–16.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫、2011. 日本海産魚類目録（予報）. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 65–94.
- 河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・忠鉢孝明・安澤 弥・池田 怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳 俊郎・長瀬達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・船木信一、2014. 日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, 11: 1–30.
- 気象庁、2024a. 旬平均海面水温. https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/jun/sst_HQ.html (15 Oct. 2024)
- 気象庁、2024b. 旬平均海流. https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/jun/current_HQ.html (15 Oct. 2024)
- 気象庁、2024c. 過去の気象データ検索. <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (15 Oct. 2024)
- 松浦啓一、2017. 日本産フグ類図鑑. 東海大学出版部, 平塚. 127 pp.
- 本村浩之、2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 27. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html> (15 Oct. 2024)
- Nishimura, S. 1965. The zoogeographical aspects of the Japan Sea, part I. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 13: 35–79.
- Nyegaard, M., N. Lonergan, S. Hall, J. Andrew, E. Sawai and M. Nyegaard. 2018. Giant jelly eaters on the line: species distribution and bycatch of three dominant sunfishes in the Southwest Pacific. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, 207: 1–15.
- 相良恒太郎・小澤貴和、2002. 日本周辺におけるマンボウ類に関するアンケート調査結果. *水産海洋研究*, 66: 164–167.

- 澤井悦郎. 2017. マンボウのひみつ. 岩波書店, 東京. 208 pp.
- 澤井悦郎. 2020. 写真に基づく青森県初記録および北限記録更新のヤリマンボウ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 5–9.
- Sawai, E., M. Nyegaard and Y. Yamanoue. 2020. Phylogeny, taxonomy and size records of ocean sunfishes, pp. 18–36. In Thys, T. M., G. C. Hays and J. D. R. Houghton (eds.) *The ocean sunfishes: evolution, biology and conservation*. CRC Press, Boca Raton.
- 澤井悦郎・峯水 亮. 2022. 日本近海で初めて撮影されたイカ類との相互作用を示す生きたヤリマンボウ幼魚の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 20: 44–50.
- Sawai, E. and M. Yoshida. 2019. Marine and terrestrial food chain links: the case of large-billed crows *Corvus macrorhynchos* eating stranded sharptail sunfish *Masturus lanceolatus* in Fukui Prefecture, Japan. *Bulletin of the Fukui City Museum of Natural History*, 66: 57–62.
- 四国新聞社. 2003. マンボウを海に帰す／唐津湾の砂浜に漂着. *SHIKOKU NEWS* (2003年1月10日付). https://www.shikoku-np.co.jp/national/life_topic/20030110000188 (15 Oct. 2024)
- 高木正人. 1966. 有明海・玄海の魚. 高木正人, 出版地不明. 55 pp.
- 田北 徹・小村大樹・川原逸朗・森 勇一郎・中島則久・伊藤史郎. 2003. 有明海奥部佐賀海域における魚類の分布生態. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 21: 81–98.
- 鷺尾真佐人・有吉敏和・野口敏春. 1996. 有明海湾奥部の魚類相. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 17: 7–10.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.